



巻頭特集

このまちの暮らしが、もっと好きになる！

転勤族カフェ

知人もいなくて全てがゼロからのスタート、地域に馴染めるか、慣れない土地での生活に大きな不安を持つ「転勤族」。そんな転勤族ならではの悩みを語り合い、地域での仲間作りや情報の交換を目的に開かれている「転勤族カフェ」を訪ねた。



年齢・性別を問わず、予約不要で自由に、誰でも参加できる。が、この日は少し違った。というのも、「コラボ」の「転勤族カフェ」は未就園児を持つ女性の参加が多く、子育てに関する悩みがよく話題に上っていた。そこで今回、「ベビーとママのための転勤族カフェ」と題し、赤ちゃん連れの転勤族に初めて限定して、イベントを開くことになったのだという。

心強い先輩転勤族、そして同じ環境にいる、新しい友人

▼転勤経験者でもある齊藤さんと平岩さんは、新しく越してきた人の良き理解者であり、頼れる存在だ



▲普段の「転勤族カフェ」は机を囲んでのフリートーク。転勤してきた人なら年齢性別問わず、誰でも何度でも参加できる



転勤族は共通の話題や悩みがあるように、出身地や転勤回数、転勤先での珍事件など、転勤族あるある話で大いに盛り上がる。特有の悩みは多岐にわたり、そもそも地理が分からない、相談相手もいない、方言が分からない、情報は広報やチラシを隅々まで読んで収集……。そんな中「転勤族カフェ」には千里に越してきて何年か経つ転勤族の先輩がいる。店や病院、学校など、知りたい情報を「信頼できる情報」と

転勤族は共通の話題や悩みがあるように、出身地や転勤回数、転勤先での珍事件など、転勤族あるある話で大いに盛り上がる。特有の悩みは多岐にわたり、そもそも地理が分からない、相談相手もいない、方言が分からない、情報は広報やチラシを隅々まで読んで収集……。そんな中「転勤族カフェ」には千里に越してきて何年か経つ転勤族の先輩がいる。店や病院、学校など、知りたい情報を「信頼できる情報」と



奈良沙耶佳さん 田村尚美さん 前川直美さん

豊中市千里文化センター「コラボ」市民協働部 千里地域連携センター

して聞くことができるのだ。参加者の多くは、はじめは馴染めるかどうか不安を抱えて来るそうだが、実際のアンケートでは「おしゃべりするだけで楽しかった」、「情報交換できてよかった」など、「また来たい」の声が多く寄せられる。転勤族にとってここは地域に触れる第1歩の地でもあり、ネットワーク作りの起点となっているようだ。

転勤で千里に越してきて、現在は市民サポーターとして活動する齊藤さんと平岩さん。千里の特徴を尋ねると「転勤族が多い」と一番に答えた。子どもの学校も、クラスの半数以上が転校経験者、先



豊中市千里文化センター「コラボ」転勤族カフェ
※3月の開催は11日(金)の予定。その他、今後の開催については問合せを
住所：豊中市新千里東町1-2-2
TEL：06-6831-4133

千里での経験が励みに新天地でも繋がりが続ける輪

友達もできて、生活にも慣れてきたのにまた転勤……。ひとつの地になかなか落ち着けないのが転勤族の性。2、3年でまた転勤していく人も少なくない。けれど「ここで培った関係があるから大丈夫」と、「転勤族カフェ」での経験が新天地へ向けての励みになったり、「次の場所でも『転勤族カフェ』を提案してみよう」と、自立のきっかけにもなっているようだ。また様々な土地の経験者がいることから、次の転勤が決まっても、事前にその情報を聞くこともできる。

「転勤しても連絡を取り合ったり、友達の転勤先と自分の実家が近いので、帰省した時は会う約束をしたり、ここでできた友達とはずっと続いています」と平岩さん。「転勤族カフェ」で築いた繋がりは、千里を越えても切れることなく、転勤族の支えになっているのだ。



齊藤亜希子さん 桑田沙智代さん 平岩幸子さん

転勤族カフェ ボランティアスタッフのみなさん

転勤族は誰でも参加OK！ 共通の話題でフリートークを
去る1月22日、木枯らしが吹く寒い日だったが、「豊中市千里文化センター」コラボ（以下、「コラボ」の「室」に、「おはようございます」と、ベビーカーを押したママたちが続々と入ってきた。皆、「転勤族カフェ」の参加者だ。リピーターもいれば、初参加の顔も多い。思い思いの場所に腰をおろし、子どもたちも自由に動き出す。
「転勤族カフェ」は、「豊中市千里地域連携センター」のサポートのもと、市民が参画する「千里文化センター」市民実行委員会が主催している。もともと、「とよなか男女共同参画推進センター」「すてっぷ」ではじまり、「千里は転勤族が多いので、そちらでもしてほしい」との市民からの要望を受け、4年前に「コラボ」での開催が実現した。普段は月に1回開催されており、転勤族なら